

大磯の地形を歩く

箱根ジオパーク事務局専門員
笠間友博

図1 黒岩パミス(2002年撮影) 下に黒い火山灰層がある特徴的な軽石層



図2 上吉沢配水池(2026年6月28日撮影)

は現在より数十m低かったので、20万年間で200mは隆起しています。黒岩パミスは、秦野市カルチャーパークのボーリング資料でも見ました。海面下170mと深い場所でしたが、不思議なことに海の痕跡は全くなく、地層は川のレキ層と関東ローム層のみでした。当時の標高は不明ですが、秦野は20万年前で少なくとも数百十mは沈降しているでしょう。

20万年前、秦野は丹沢山地の麓に広がる扇状地で、その先の黒岩付近に海岸がありました。黒岩パミスが堆積した場所は海岸だった黒岩より扇状地の秦野の方が高かったはずですが、その後この関係は地殻変動で逆転し、大磯は隆起して丘陵となり秦野は沈降して盆地となっているのです。

②③ ヒトの誕生と上吉沢配水池
ヒト(ホモサピエンス)は、20万年前にアフリカで誕生したと考えられています。ヒトが誕生した20万年前、大磯はどのような姿だったのでしょうか。箱根火山には40万年の歴史があり、20万年前に噴火した火山灰層もあります。黒岩パミス(黒岩は大磯町の地名、パミスは英語で軽石のこと。記号はTAl-2、Tm-44など。)と呼ばれる火山灰層で、これを使います。この火山灰層は、大磯町黒岩にある上吉沢配水池の工事で見ることがあり(図1)、そこでは下に海岸に堆積した石の層がありました。上吉沢配水池(図2)は大磯町の北端で、そこが20万年前に海岸だったと言うことは、その沖側の大磯町の大部分は海底だった事になります。生息する魚介類は今と大きく変わらなれないと思われませんが、それらを食するヒトは、まだ日本にはいませんでした。

その時を助け合い
乗り切るために ①⑦

ペット同伴避難所 ～大切な家族であるペットと一緒に避難できる場所があることを知ってほしい～

災害時にペットがいることで、避難所には行かず車中泊して避難者がエコノミークラス症候群などの健康被害につながるケースが懸念されています。避難をためらう必要がなくなるよう大磯町が6月「岩田孝八記念室内競技場」をペット同伴避難所に指定しました。ペットを家族の一員として一緒に暮らしている方にとって、嬉しい知らせとなりました。大磯町のこの英断は、東京新聞などの記事に取り上げられました。全国的にも同伴できる避難所はとても少ないからです。最大収容人数74人と小規模で、長期に避難することはできませんが、風水害避難などに大いに期待ができそうです。受け入れてもらうには、ケージやキャリーなど持参、狂犬病予防接種した犬など条件をクリアしなければなりませんし、ペット用食料など備品も持参。ペットの管理は飼い主自身です(他の避難所も同様)。「ペットを飼っているから避難することをあきらめる」時代からペットと「一緒に避難するために準備する」時代に変わりました。避難する側も避難所を運営する側も準備は大掛かりになるかもしれませんが、少しずつ備えていきましょう。(川崎)



岩田孝八記念室内競技場



室内(避難所イメージ)

大磯町災害救援ボランティアの会は、地域の安全・安心を第一優先として災害時への備えを考えている団体です。一緒に活動していただける会員を募集しています。また、防災に関する情報や質問などがありましたらぜひお知らせください。(伊藤)

✉ itou1321@forest.ocn.ne.jp

☎ 090-3403-6443



『大磯のなかまたちへ』第31号

編集・発行 大磯町災害救援ボランティアの会
255-0003 大磯町大磯 1352-1
大磯町災害救援ボランティアの会事務局
大磯町社会福祉協議会
後援
発行日 2026年8月1日
発行部数 2,000部

